

The **BM** PARTNER [特別編]

新潟県胎内市を拠点に活動するアメリカンフットボールクラブチーム「胎内 DEERS (たいないディアーズ)」。
鹿島建物は2021年よりパートナーズポンサーとして協賛している。
また、現在5名の選手が鹿島建物の社員として活躍中である。

胎内DEERSについて
今年で34年の歴史ある「DEERS」の名を引き継ぎ、2021年に誕生した社会人アメリカンフットボールクラブチーム。「ベストは常に超えるもの」「日本一にふさわしいチームとなって日本一になる」をモットーに100名以上の選手とスタッフで活動している

KAJIMA TATEMONO



鹿島建物 × 胎内 DEERS

TAINAI DEERS

ディアーズパートナーズポンサー
“個人”や“法人”の対象を定めない、新しいかたちのクラブ支援。DEERSの活動理念やめざすロードマップに賛同する誰もが、応援を支援というかたちで表現できる



誇り高き雄鹿たち

胎内DEERSの軌跡

1989年、鹿島建設の創業150周年記念事業の一つとして、アメリカンフットボールの実業団チーム「鹿島DEERS」が発足した。順調に力をつけていき、創部10年を経ずして、日本一に輝いた。さらに、2009年に二度目の王座を手にし、その後も実力派チームとして日本を代表する多くの選手・スタッフを輩出している。

2014年からはクラブチームに形態を変更し、およそ60社ものスポンサーに支えられながら活動を続けてきた。そして1部リーグX1 Superに復帰となった2022年、経営体制の変更に伴い新潟県胎内市をホームタウンにする大変革を契機にチーム名「胎内DEERS（以下、DEERS）」として新たなスタートをきった。

鹿島建物のDEERS支援

鹿島建物は、鹿島DEERSだった2003年に、選手を社員として採用した。仕事にもスポーツにも打ち込む同僚の姿が、社内全体に良い影響を生み出してくれるのではないかという期待を込めての試みだった。

その後、クラブチームへと体制が変化しても関係性は継続し、現在鹿島建物では、5名の選手が社員として働いている。

選手在籍の実績が長いこともあり、社内全体でDEERS活動への理解が深く、選手の両立を応援する風土が醸成されている。鹿島建物では、ディアーズパートナーズスポンサーとしてだけでなく、選手が安心・安定して働ける環境を提供することで、DEERSを応援している。

代表

Interview

胎内DEERSが大切にしている理念について、DEERS FOOTBALL CLUB代表取締役高橋孝輔氏に話を聞いた。

株式会社
DEERS FOOTBALL CLUB
代表取締役
高橋孝輔氏



DEERSでの時間を糧にしてほしい

アメリカンフットボールの経験を仕事や生活に活かし、人生をより豊かにして欲しいです。

アメリカンフットボールは、状況に応じた戦略の立案と実行がとても重要な競技です。そのため選手には、コーチから出された指示を正確に理解してプレイすることが求められます。さらに、フィールドに立つ選手全員が、与えられた役割を忠実にやるという信用の積み重ねでチームが成り立ちます。このようなアメリカンフットボールで培った状況理解力と遂行力は、鹿島建物で勤める選手たちが落ち着いて自分の仕事を全うする様子に表れているのではないのでしょうか。

また、選手と会社員を両立させるために、彼らは目の前のこと一つひとつに常に真剣に取り組んでいます。平日は仕事を優先し、練習時間が限られているため、貴重な時間を無駄にしないよう集中して練習しています。

関わったすべての人に幸せを届ける

今年度、新体制となった胎内DEERSでは新たなパーパスとして「アメリカンフットボールを通じて幸福で豊かな10年後の未来を創る。」を掲げました。DEERSに関わったすべての人や地域が「DEERSがあって良かった」と思えるような組織をめざしていくための宣言です。選手やホームタウンである胎内市に限らず、私たちの理念に共感して応援して下さるスポンサーの皆様にもそうであってほしいと考えています。

私たちはスポーツでの勝利だけでなく、社会にどのような影響力を与えられるかということにも活動の重きを置いています。2023年シーズンからは胎内市での公式試合の開催も計画しており、新潟への活動拠点の移転と地域活性プロジェクトを進めているところです。DEERSがスポンサーの皆様と新潟エリアを結びぎっけになれば、とても素晴らしいことだと思います。

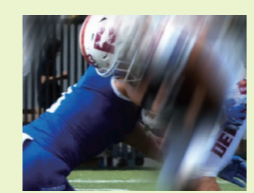
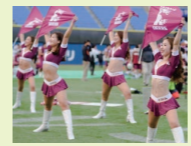


2022年8月、チーム全員で胎内市を訪問した

The **BM** PARTNER [特別編]

TAINAI DEERS

毎週水曜夜と土日は調布市の鹿島建設柴崎グラウンドで練習を行っている



Report 9月11日(日)に2022年度 X1 Super 秋季リーグ戦の初戦「胎内 DEERS vs IBM ビッグブルー」が行われた。

選手が横一列に並び、応援席に向かって深々と一礼をしてから始まった胎内 DEERS 秋季リーグ初戦。第1Q 開始5分、ベテランK#14 青木のフィールドゴールトライを確実にゴールに収め先制点を決めた。好調の出だしに応援席の熱が徐々に高まっていった。パーガンディを基調とした新ユニフォームを着たチアリーダーズがコールとダンスで華やかに応援をリードし、試合を盛り上げる。オフェンスラインを中心にパスプレー・ランプレーで攻め続け陣地を獲得するも得点には至らない。選手は奮闘するものの、後半 IBM ビッグブルーに点を重ねられ「10-35」で惜敗した。

11月19日(土)の試合をもって、胎内 DEERS の2022年シーズンが幕を閉じた。DEERSとして大きな変革を経て新たな一歩を踏み出した今シーズン、X1 Super 6戦2勝という厳しい結果となったものの、日本一を競う舞台「X1 Super」で来期も戦うことが決定した。DEERSには、来シーズンこそ日本一になるという闘志がみなぎっている。

選手 Interview



DEERS選手として活躍している鹿島建物の社員にインタビュー。5名を代表して総務部の川出職員と峰尾職員に話を聞いた。

仕事でも試合でも “縁の下の力持ち”

“要”を担うことのやりがい
Q. 鹿島建物での仕事内容は？
峰尾：主な仕事は、契約書類の不備確認や支社・営業所からの問合せ対応です。契約については会社の信用・信頼に関わる重要な仕事のため、緊張感をもって丁寧な確認を行っています。
川出：自分たちは、試合でも OL（オフェンスライン）という攻撃時にディフェンス側の突進を防ぐための壁となるポジションを担っています。走ったり、投げたりといった華やかなプレイではありませんが、OLこそが攻撃の要です。仕事でも、私たちの業務が陰で会社を支える要であると実感しています。

るファンの方や地域住民のたくさんの方々から直に声援をいただける機会でも、とても励みになっています。私たちからも日々の応援への感謝を伝えられる大切なイベントです。
峰尾：DEERSの副将を務めています。チームの顔として前に立つことは緊張もありますが、それ以上にチームの運営を手伝うことができる役割を誇らしく思っています。DEERSの活動を通じて、アメリカンフットボール以外にも新しい学びや経験を得ることが多いです。

人を育てるDEERSの活動
Q. 印象的な DEERS の活動は？
川出：毎年、柴崎グラウンドにてファンフェスタを行います。長年応援してくださって

目標は日本一
Q. 今後の目標は？
川出：DEERS で日本一になること、そして社会人としても周りから認められる仕事をしたいです！
峰尾：日本一にふさわしいチーム、日本一の社会人をめざします！



総務部 川出 晃平
総務部 峰尾 真浩



ファンフェスタで地域の子どもたちと交流



TAINAI DEERS vs IBM BIG BLUE

鹿島建物社員として働く胎内 DEERS 選手



DL 樋口 齋
中央支社
管理事務所

OL 上松 大展
営業本部

OL 川出 晃平
総務部

OL 高橋 康太
人事部

OL 峰尾 真浩
総務部

鹿島建物は DEERS の活動理念に共感し、これからも応援をし続けていく。鹿島建物社員の選手たちが、建物管理でも DEERS でも第一線で活躍する姿に期待している。

DEERS では選手を支える **STAFF 募集中**



Mail: deersinfo@deers.jp

